

第2章 1991年度普及研究・資料整理活動

1 資料整理

本年度は次の6件の発掘調査の資料整理を行った。

- ① 津島岡大1次調査（学生部男子学生寮予定地）

報告書刊行

- ② 鹿田5次調査（医学部附属病院管理棟）

出土遺物の復元・実測・一部写真撮影，出土種子類の採集，遺構のトレース

- ③ 津島岡大5次調査（大学院自然科学研究科棟）

出土遺物分類，復元，出土種子類の洗浄・採集

- ④ 津島岡大6次調査（工学部生物応用工学科棟）

出土遺物の復元・実測，出土種子類の採集

- ⑤ 津島岡大7次調査（工学部情報工学科棟）

遺構のトレース

2 分析依頼

- ① 出土種子同定…大阪市立大学理学部教授 粉川昭平

津島岡大遺跡（3次調査）：縄文時代晩期貯蔵穴内出土種子・縄文時代後期層出土種子
古代河道内出土種子

- ② 灰像分析・炭化物の同定…東京大学総合研究資料館 松谷暁子

津島岡大遺跡（3・5次調査）：縄文時代後期貯蔵穴内出土土器内炭化物

- ③ 木製品樹種同定…農林水産省森林総合研究所 能城修一

鹿田遺跡（1・2・5次調査）：弥生時代中期～中世の井戸・溝等出土木製品他

津島岡大遺跡（4・6次調査）：古代溝出土杭群・縄文時代後期河道出土自然木他

〃（5次調査）：縄文時代後期貯蔵穴出土堅櫛

3 刊行物

- | | |
|--------------------------|-------------|
| ① 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第6号 | 1991年8月 発行 |
| ② 岡山大学構内遺跡調査研究年報 第8号 | 1991年12月 発行 |
| ③ 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第5冊 | 1991年3月 発行 |
| ④ 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第7号 | 1991年3月 発行 |

※なお、1990年度までの刊行物については附表3・4で一覧にして挙げている。

4 調査員の活動

(1) 資料収集活動

阿部芳郎

中部地方における縄文早期土器の実査：長野県御代田町教育委員会，岡谷市教育委員会

関東地方における縄文早期土器の実査：神奈川県埋蔵文化財センター，横須賀市立博物館，
明治大学考古学研究室

東日本における縄文時代竪穴住居資料集成：明治大学考古学研究室，山梨県富士吉田市教育委員会

土井基司

丹波・但馬・若狭の横穴式石室の実査：若狭歴史民俗資料館ほか

種子鑑定資料返却ほか：大阪市自然史博物館

平安時代の土器資料収集：防府市教育委員会

中世土器の資料収集：広島県立博物館，鴨方町歴史民俗資料館，府中市文化センター

富樫孝志

南関東における尖頭器文化成立過程の研究：神奈川県大和市教育委員会，岡山県立埋蔵文化財センター

石灰岩地帯における遺跡及び第四紀哺乳類化石産出地点の調査：岡山県阿哲台

松本武彦

中世都市遺跡の遺物について：広島県立博物館

山本悦世

縄文土器について：島根県匹見町教育委員会

中世土器について：広島県立博物館，山口県防府市教育委員会

(2) 学会・研究会等参加

阿部芳郎

考古学研究会総会（4月），日本考古学協会大会（5月）

土井基司

考古学研究会総会（4月），埋蔵文化財研究会（8月，2月），古代学協会四国支部大会（9月），九州史学会（12月），中近世土器研究会（12月），東アジア考古学・古代史研究交流会（2月）

富樫孝志

考古学研究会総会（4月）、中四国旧石器文化談話会（10月）、山口県旧石器文化談話会、

松木武彦

考古学研究会総会（4月）、日本考古学協会大会（5月）、埋蔵文化財研究会（2月）

山本悦世

考古学研究会総会（4月）、中四国縄文研究会、中世土器研究会（12月）

(3) 研究発表他

富樫孝志

「相模野台地における尖頭器製作」考古学研究会例会

山本悦世

「吉備系土師器碗の成立と展開」中世土器研究会

(4) 論文・資料報告他

阿部芳郎

「狩猟具としての石器～縄文時代における石鏃の集団保有と狩猟活動～」(『季刊考古学』35号)

「堀込遺跡における早期前葉土器群の構成」(『栃木県市貝町発掘調査研究報告書』市貝町教育委員会)

「堀込遺跡における早期前葉石器群の構成」(同上)

富樫孝志

「山口県における石器原材の原産地推定」(『第四紀研究』30巻4号<共著>)

松木武彦

「銅鏃の終焉」(福永伸哉編『長法寺南原古墳の研究』)

5 日誌抄

4月1日	稲田センター長着任 富樫孝志助手着任 年度始め打ち合わせ	11月13日	年報8入稿
4月11日	今年度活動内容等打ち合わせ	11月19日	木器処理施設打ち合わせ
4月17日	センター報第5号発送	11月25日	センター建物内ワックス掛け
4月18日	月例会議	11月28日	土井・松木・山本・内田4名、中世遺跡出土資料実査のため、広島県草戸千軒町遺跡調査研究所へ（研修） 月例会議 木器処理 センター報第7号企画
5月9日	運営委員会 1990年度決算、1991年度予算、人事、事業計画等	12月10日	運営委員会 木器処理外注分搬出準備開始
5月15日	月例会議	12月17日	年報8、センター報第6号発送
5月16日	管理委員会 1990年度決算、1991年度予算、人事、事業計画等	12月25日	月例会議 センター報第7号進捗状況 木器処理外注分搬出の段取り 今年度残り予算、購入図書
5月30日	種子類および木質遺物サンプル同定のため、松谷暁子・能城修一両氏に資料を発送	12月27日	遺伝子実験施設用地発掘調査終了 大掃除、御用納め
6月3日	土井・富樫・山本3名、縄文土器資料実査のため京都大学へ（研修）		
6月19日	遺伝子実験施設用地（津島岡大8次）発掘調査打ち合わせ	1992年	
6月22日	アイソトープ総合センター用地（鹿田6次）発掘調査、現地説明会	1月4日	仕事始め
6月29日	同 調査終了	1月9日	木器処理施設打ち合わせ
7月1日	阿部芳郎助手着任	1月10日	半田山演習林内踏査
7月4日	遺伝子実験施設用地発掘調査打ち合わせ	1月17日	外注分木器、元興寺文化財研究所へ搬出
7月15日	同 調査開始（～12月28日） 木器処理施設打ち合わせ	2月3日	未処理木器貯蔵水槽水替え
7月22日	月例会議	2月12日	入口看板設置の打ち合わせ
7月29日	松木、木器処理施設見学のため岡山県古代吉備文化財センターへ	2月21日	月例会議 工学部情報工学棟・生物応用工学棟（津島岡大6・7次）調査他、整理および報告書進捗状況 1992年度予算案、活動計画案
8月6日	元興寺文化財研究所にて保存処理中のアンペラが作業完了、到着	3月24日	月例会議 アイソトープ総合センター（鹿田6次）・大学院自然科学研究棟（津島岡大5次）調査報告書素案提出 男子学生寮予定地（津島岡大3次）調査報告書・センター報第7号進捗状況
9月13日	管理委員会（持ち回り） 人事について	3月27日	1992年度予算打ち合わせ
9月26日	木器処理施設打ち合わせ		
10月1日	内田恵（技術補佐員）着任		
10月2日	木器処理施設打ち合わせ		
10月17日	月例会議 年報8進捗状況 ワックス掛けの段取り		

6 1991年度までの遺物収蔵量および保管体制

(1) 遺物収蔵量（表2）

1992年3月31日における本センターの遺物収蔵量は、鹿田遺跡第1・2次調査（医学部附属病院外来診療棟・NMR-CT室）：724箱、同第3・4次調査（医療技術短期大学部校舎他）：134箱、同第5次調査（医学部附属病院管理棟）：119箱、同第6次調査（アイソトープ総合センター予定地）：30箱、津島岡大遺跡第1次調査（NP-1）：4箱、同第2次調査（農学部合併処理槽・排水管）：18箱、同第3次調査（学生部男子学生寮予定地）：71箱、同第5次調査（大学院自然科学研究科棟）：89箱、同第6次調査（工学部生物応用工学科棟）：63箱、同第7次調査（同情報工学科棟）：13箱、同第8次調査（遺伝子実験施設）：14箱、その他の発掘及び試掘・立会調査（分布調査含む）：18箱、総計1297箱を数える。詳細は表2に挙げた。1箱の容量は約30ℓを目安としている。また、木器の中で大型水槽に保管のものについては1箱に換算して計算している。

(2) 管理・保管施設

本センターは、津島地区に管理・保管・収蔵等の主要施設を、そして鹿田地区には連絡所を置いている。津島地区では、本年度は、従来からの管理施設（面積は100㎡）と収蔵施設（延面積は300㎡：1・2階各150㎡）の他に、新たに木製品の保存処理室（面積は約39㎡）が加わった。収蔵施設は、主として、1階を遺物の洗浄等の作業場として一部を利用するとともに、遺物の保管室ならびに器材置き場とし、2階を常設展示室（約18㎡）・写真撮影室（約10㎡）・遺物整理室（約117㎡）として使用している。木製品の保存処理室は収蔵施設の西側に隣接して建設され、年度末に完成した。

鹿田地区の連絡所は、昨年度から引き続いて、旧混合病棟の東にある旧管理棟の二階の一室（約25㎡）にある。

今年度は新たな施設の設置があったため、使用総面積は、約464㎡となった。

(3) 遺物の保存処理

本学内の遺跡からは、その大半が沖積部に立地していることから、多数の木製品が良好な保存状態で出土している。精巧な加工品から杭まで様々な種類があるが、いずれも資料価値の高いものである。これらは水漬け状態でこれまで保存されてきたが、長期のものでは10年近い年月が経過しており、その保存状態は既に限界に達し、特に、ここ数年は劣化の進行が著しく、一日も早い恒久的保存処理の実施が必要となっていた。

そうした中で、1989年度に、縄文時代の貯蔵穴内から出土したアンペラ（津島第6次調査）の保存処理を元興寺保存科学研究所に委託することができたのに続き、本年度は、長年にわたる木製品の保存処理の要望がついに具体化することとなった。この計画では、保管中の木製品

表2 埋蔵文化財調査研究センター収蔵遺物概要

所属	種類	地 区 調 査 名 称	箱 数 (1箱:約30ℓ)						備 考 主要時期・特殊遺物	文 献
			総数	土器	石器	木器	その他	サンプル		
医病	発掘	鹿田1次調査 (外来診療棟)	608	491	6	60	1 ガラス 鉄器 銅 鐵 他	50	弥生中期～中・近世 短甲状・櫛状木器等	⑦
〃	〃	鹿田2次調査 (NMR-CT室)	116	90	3	20		3	弥生後期～中世 田舟・木筒等	〃
医短	〃	鹿田3次調査(校舎)	131	36		90		5	古代～中世	⑩
〃	〃	鹿田4次調査(配管)	3	2				1	古代, 鹿角製品	〃
医病	〃	鹿田5次調査 (管理棟)	119	79	1	20		19	弥生後期～中・近世	⑧
R I	〃	鹿田6次調査 (アイ ソトープ総合セン ター)	30	29.5	0.5				中世, 青銅製椀	⑪
	〃	津島岡大1次調査 (NP-1)	4			4			弥生中期～古代	③
農	〃	津島岡大2次調査 合併処理槽 排水管	18	7 6	1			4	縄文晩期～弥生前期	④
学生	〃	津島岡大3次調査 (男子学生寮)	71	49	10	2		10	縄文後期～弥生, 古代～近世 石製指輪, 蛇頭状土器片	⑬
〃	〃	津島岡大4次調査 (屋内運動場)	1	1					縄文晩期～弥生前期 ＜試掘調査遺物を含む＞	⑥
大自	〃	津島岡大5次調査 (自然科学研究科棟)	89	55	2			32	縄文後期～弥生, 古代～近世 耳栓・木製櫛(縄文)	⑪ ⑪
工	〃	津島岡大6次調査 (生物応用工学科棟)	63	30	1	22		10	縄文後期～近世 人形木器, アンペラ	⑪ ⑭
〃	〃	津島岡大7次調査 (情報工学科棟)	13	7	1			5	縄文後期～近世	⑪
全	〃	津島岡大8次調査 (遺伝子実験)	14	12.9	0.1			1	縄文後期～近世	⑫
医病	試掘	鹿 田 駐車場	1	1					弥生～中世	⑤
学生 教育	〃 〃	津島北 男子学生寮 研究棟	1	0.7	0.3				縄文後期～弥生前期	〃
大自	〃	〃 自然科学研 究 科棟	1	1					縄文後期～弥生前期	〃
事	〃	津 島 外国人宿舍 (土生)	1	1					縄文～中世	⑧
理	〃	津島北 身障者用エ レベーター	0.3	0.3					中・近世	〃
教養	〃	津島南 〃	0.7	0.7					縄文・中世	〃
工	〃	津島北 校舎	1	1					縄文～近世	⑪
農薬	〃	津島南 動物・遺伝 子実験施設	0.7	0.7					縄文～弥生, 中・近世	〃

所属	種類	地 区 調 査 名 称	箱 数 (1箱:約30ℓ)						備 考 主要時期・特殊遺物	文 献
			総数	土器	石器	木器	その他	サンプル		
事	試掘	津島南 国際交流会館	0.3	0.3					中世	⑪
大自	〃	津島北 合併処理槽	0.2	0.2					中・近世	⑭
学生	〃	津島南 学生宿所	0.4	0.2				0.2	中世	〃
教育	〃	津島北 身障者用エレベーター	0.3	0.3					縄文	〃
図	〃	〃 図書館	0.8	0.8					古墳～中世	〃
学生	〃	津島南 学生宿所ポンプ槽	0.4	0.4					縄文～中世	⑰
資生	〃	倉 敷 資源生物科学研究所	0.1	0.1					近世	〃
R I	〃	鹿 田 アイソトープ総合センター	1	1					中世～近世	〃
事	〃	津島北 福利厚生施設	0.5	0.5					弥生?～中世	〃
全	立会	'83年度	2	2					分銅形土製品	①
〃	〃	'84年度	1	1						②
〃	〃	'85年度	1	1						⑤
〃	〃	'86年度	0.5	0.5						⑥
〃	〃	'87年度	0.5	0.5						⑧
	分布	'89年度 三朝・本島	0.3	0.3						⑭
全	立会	'91年度	1	1						⑳
総 箱 数			1,297	911.9	25.9	218	1	140.2		

※文献番号は附表3，4に対応する。文献㉑は本年報9を指す。

を専門的な外部機関に委託するものと本センターで独自に行うものに分け、それぞれで処理を行うこととなった。前者は、本センターでは対応できないと判断されるものであり、1991年度・1992年度の2カ年計画で元興寺保存科学研究所に委託した。処理方法は木製品に応じてPEG含浸法とアルコール・キシレン法とが使い分けられる。独自に行うものは、木製品の種類・材質等の状況や処理方法の検討から、施設を整えれば本センターにおいても保存処理が可能であると判断されるもので、委託費も参考しつつ、今後の資料の増加も鑑み、新たにPEG含浸装置を設置し、一部の木製品の保存処理に対応することとなった。関連施設は年度末に完成し、1992年度から稼働する予定で環境が整えられた。(山本)

注

- (1) 木製品の保存処理方法およびPEG含浸装置について、篠原芳秀(広島県埋蔵文化財調査センター)・伊藤実(広島県立博物館)両氏から多大なご助言・ご教示を得た。また岡山県古代吉備文化財センターからも薬品等に関してご助言を得た。

第3章 1991年度活動のまとめ

本年度は、稲田孝司センター長が着任し、また助手2名と技術補佐員1名を加え、新たな体制で業務に臨むことができた。

発掘調査は、鹿田地区・津島地区で各1件ずつ行い、大きな成果をおさめた。昨年度に引き続いておこなったアイソトープ総合センター用地の鹿田遺跡第6次調査では、雨や湧水に悩まされながらも、3～4世紀（弥生時代末～古墳時代前期）の鹿田集落の西端部分の様子を初めて明らかにできた。7月に始まった農学部遺伝子実験施設新営に伴う津島岡大遺跡第8次調査でも、遺跡のうちこれまではっきりしなかった部分の状況を知ることができた。今後の調査の進展により、さらに多くの成果をあげることができよう。立会調査も随時おこなわれ、その都度、構内各所の土層堆積状況などを確認する機会を得たが、連絡の不徹底によるトラブルは本年度もまたなくすことができなかった。埋蔵文化財行政に対する理解を深めてもらうための広報活動へのより一層の取り組みは、依然として大きな課題のひとつである。

室内整理作業の成果としては、津島岡大遺跡第3次調査（学生部男子学生寮予定地）の調査報告書『津島岡大遺跡3』の発刊が特筆される。この調査では、とくに縄文土器を中心とする良好な遺物が得られたほか、弥生～明治時代にわたる各段階の水田面が検出されていたが、これらの資料をもとにした研究の成果も、報告書に盛り込むことができた。その他、本年度の刊行物としては、年報8およびセンター報第6・7号がある。こうした定期刊行物も規則正しく発刊できるような体制が整いつつある。

待望の木器処理施設も本年度に整い、稼働を始めた。これまで水漬けの状態で劣化を避けることのできなかった木製品も、出土年次の古いものから順次処理がおこなわれつつあり、その方面の憂いはほぼ解消することとなった。ただし、精巧なものや特殊なものは、専門の機関に処理を委託している。種子などを含むその他の有機質遺物についても、自然科学分野の研究者の方々に鑑定や研究の寄稿を頂いており、多大な研究成果が得られている。

従来おこなってきた展示会その他の普及啓蒙活動に関しては、昨年度までに一定の成果が得られたことや、本年度は調査研究分野のより一層の充実に主眼をおいたことなどから、とくに具体的な取り組みをしなかった。今後、新たな方針のもと、こうした分野の活動のあり方を模索していく必要があろう。ともあれ、本年度は人員・施設とも昨年度に比較して充実の方向へ進み、それを基礎とした新たな体制のもと、ほぼ満足できる活動成果が得られたのではないかなと思う。

（松木）